

支援を活用してもらうためにも、支援策や相談先の広報・周知に努めていきたい。

市民通報システムの構築について

問 スマートフォンなどを活用した市民通報システムの構築に対する考えは。

答 利用する市民や職員が使いやすいシステムで、まずは件数の多い道路の損傷等に関する通報システムを構築しながら、非常時でも使えるようなものを検討していきたい。個人情報保護等の課題への対応もあるが、最新のITシステムや他市の先進事例等も調査しながら、独自システムの構築を検討していきたい。

新実祥悟（無党派）

第五次総合計画の策定は

問 策定に必要な期間について伺う。

答 平成30年度下半期から策定体制の立ち上げや計画の評価を行う準備に取

りかかりたい。31年度から本格的なワーキングや審議会等の議論を重ねて基本構想、基本計画を検討し、32年度末に策定というスケジュールを考えている。

問 組織や人員の配置についての考えは。

答 一部の職員だけでなく、全庁的に取り組める体制や方策を検討し、市民参加型で計画を作り上げるための組織を整えていきたい。

問 市民参加について、具体的な考えがあるか。

答 市民意識調査などの間接的な参加手法だけではなく、市民のニーズや意見を的確に反映し、市民がまちづくりの主体的に取り組む意識を醸成するために、直接意見を言える機会を

きるだけ設け、今後10年間の本市の方向性を市民と一体となって作っていきたい。

広中昇平（自由クラブ）

予防接種について

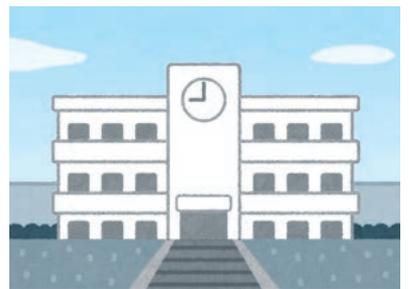
問 予防接種の履歴は母子手帳で確認できるが、多くの人は手元になく、履歴などの病気にかかったかも覚えていない。そこで、全ての予防接種終了後、履歴を通知する事業を始めてどうか。

答 通知を行うには課題があるが、接種履歴の把握に加え、健康意識の向上と健康づくりにつなげていけるよう、効果的な方法を調査、研究していきたい。

新教育長の教育への取り組み指針について

問 教員の過重労働対策として、部活動の見直し、シルバー人材の活用について伺う。

答 部活動については、活動時間等の方針を盛り



込んだ「蒲郡市の部活動指導の指針」を年度末までに作成する。シルバー人材の活用など人的支援については、問題意識は持つており、他市の状況も参考にし、支援方法を考えていきたい。

牧野泰広（自由クラブ）

発達支援に対する考え方は

問 小中学校における特別支援の現状は。

答 在籍する学級にかかわらず、特別な支援の必要な児童生徒に個別の教育支援計画と指導計画を作成して、日々の教育活動を行っている。

問 開設予定の福祉型児童発達支援センターを医

療型で整備して、市民病院長には、センター長に就任してほしいし、今後も市と何らかの形で関わってほしい。院長の思いは。

答 児童発達支援の中心的な役割を担うのは福祉と教育であり、医療はあくまでも側面支援であると考えている。センターの設置により療育の裾野が広がることは早期の発見・治療、二次障害予防の観点から喜ばしいことである。センター長就任の話はありがたいが、今後は、緊密な連携を図りながら、センターを支援する立場で外来スタッフとともに医療面から未来ある子どもたちのために力を尽くしていきたい。



第四次蒲郡市総合計画

